

イケメン教師の受難

―伝説の運動会篇―

第四巻 綱引きで絶頂

海老沢 薫 著

内容

■ 著作権について

■ まえがき

■ 第一章 悦楽の綱引き

■ 第二章 校庭のど真ん中で逝くイケメン教師

師

■ 海老沢薫 B L O G

■ 海老沢薫 W e b 連載小説

※ 海老沢薫 B L O G

<http://kaoruebisawa.blog.fc2.com/>

・ ・ ・ 海老沢薫の最新作の出版情報や、そのほか各種コンテンツ情報などを配信。

■ 著作権について

「イケメン教師の受難——伝説の運動会篇——」
第四巻 綱引きで絶頂——以下本書と表記する——の著作権は「海老沢薫」にあります。

・ 本書のすべての内容は、日本の著作権法、及び国際条約によつて保護されています。

・ 「海老沢薫」が事前に書面をもつて許可し

た場合を除き、本書の一部、または全部を、

あらゆるデータ蓄積手段（印刷物、電子フア

イル、ビデオ、テープレコーダー）により複

製、流用、転載、転売することを固く禁じま

す。

・ 著作権の侵害につきましては、著作権法第

619条などの罰則がありますのでご注意ください

い。

■ まえがき
 運動会の行われている校庭では高校二年生
 によるクラス対抗綱引き競技が始まろうとし
 ていた。
 すると、一糸纏わぬ姿のイケメン教師、三
 神真琴は年輩男性教師の指示で綱の中央に立
 たされ、剥き出しの〇〇と綱を紐で結びつけ
 られてしまったのだった。
 「先生、そのまま動くんじゃないやねえぞ！」
 「もし少しでも動いたら、先生の恥ずかしい
 写真をネットで拡散するからな！」
 担任するクラスの生徒達から脅迫された真琴
 は、羞恥と不安に震えながら綱の中央に立ち
 尽くすしかなかった。
 而して、ついに綱引き競技が始まると、イ
 ケメン教師の剥き出しの〇〇は綱を引き合う
 強い力によって上下左右に引っ張られ、真琴
 は教師にあるまじきみっともないアヘ顔を晒
 して悶え狂った。
 「ああっ、もう止めてくれ・・・ああっ」

真琴は全身に押し寄せる快感によって立って
いることもままならなくなり、綱引きをする
生徒達に思わず許しを乞うた。
生徒達は綱の中央で快感に喘ぐイケメン教
師をよそに白熱した互角の戦いを繰り広げ、
校庭にはイケメン教師のオスの鳴き声が響き
続けた。
いつしか真琴はまるで卑猥な操り人形のよ
うに腰を厭らしくグラインドさせながら激し
く悶え狂い、絶頂の瞬間が刻々と迫ろうとし
ていた。
「見ろよアレ！そろそろミルク出すんじゃない
「綱引きの最中にイクなんて非常識過ぎるだ
ろ。でもなんか面白そうだな」
応援席に座る生徒達が目をギラギラと輝かせ
てざわつく中、真琴はついに大きなオスの喘
ぎ声を放ち、全校生徒や保護者、同僚教師達
が見つめる前で、溢れんばかりの欲情を迸ら
せたのだった。

■ 第一章 悦楽の綱引き

素っ裸で校庭のど真ん中に立たされた真琴は、突如イチモツと綱引きの綱を紐で結ばれると、驚きのあまり大きく膨らんだイチモツを激しく痙攣させた。
「何をするんですか・・・」
真琴が怯えた表情で問い掛けると、年輩の男性教師は不敵な笑みを浮かべた。
「運動会を盛り上げるためだ。綱引きの試合が終わるまでここにじっと立っていなさい」
年輩の男性教師はまるで生徒を注意するかのような口調でそう告げた。
校庭を埋め尽くす全校生徒や保護者達は、イケメン教師のイチモツと綱が紐で結ばれたのを見ると、また新たな面白いショーが始まる予感を覚え、急にざわつきだした。
「先生、そのまま動くんじゃないやねぞ！」
「もし少しでも動いたら、先生の恥ずかしい写真をネットで拡散するからな！」

綱引きの試合に出場するために校庭の中へと入って来た真琴のクラスの生徒達は、怯える担任教師に向かってそう声を掛けた。
ああっ、一体これから僕はどうなってしまうんだ・・・真琴は思わぬ展開に動揺し、不安と恐怖に体を震わせた。
『それでは二年生によるクラス対抗綱引きを開始します！』
校庭にアナウンスが流れると、最初に対戦する二クラスの生徒達が敵と味方に分かれて綱の横に並び立った。
二クラスの間に立つ真琴は、体の両側から両クラスの生徒達の漲る闘志が押し寄せてくるのを感じ、まるで自分がこれから襲われそうな錯覚に陥った。
「絶対に勝って先生のミルクを搾り取ってやるからな！」
「先生のミルクを搾り取るのは俺達だぜ！」
それぞれのクラスの先頭に立つ生徒達は、素っ裸のイケメン教師を間に挟んで互いにそう

叫ぶと、険しい表情で睨み合った。
彼らの会話を聞いた真琴はそのあまりにも
恐ろしい言葉にますます怯え、紐で綱と結ば
れたイチモツをさらに激しく痙攣させた。
そうしている間に、互いのクラスの生徒達
は綱を握って腰を屈め、臨戦態勢に入った。
「それでは始め！」
真琴と向かい合うように綱の中央に立つ年輩
の男性教師が、大声で試合開始の合図を告げ
ると、生徒達は一斉に綱を引っ張り始め、校
庭はたちまち熱気に覆われた。
「いいぞ！引っ張れ！」
「アハハッ、面白え！」
応援席に座る生徒達は、綱を引き合う生徒達
ではなく綱の中央に立つ素っ裸のイケメン教
師ただ一人を眺めながら歓声を上げた。ああ
っ、恥ずかしい・・・。応援席に座る生徒達
の熱い視線を一身に浴びた真琴は強い快感と
羞恥に喘いだ。
綱と紐で結ばれたイケメン教師のイチモツ

は、綱引きが始まると反対方向に引っ張り合
う。綱の強い力によって上下左右に激しく扱か
れることになったのだ。
真琴は綱の中央に立ったままアへ顔を晒し
て悶え狂い、その姿は校庭にいる全員の格好
の見世物になった。
「先生、気持ち良い？」
「俺達がイカせてやるからな！」
互いのクラスの先頭に立って綱を引っ張り合
う生徒達は、目の前で悶え狂うイケメン教師
を面白そうに見つめながら声を掛けた。
「ああっ、もう止めてくれ。・・あああっ」
真琴は下半身から全身へと駆け抜ける快感に
だんだん立っているのもままなくななり、
綱を引っ張り合う生徒達に思わず許しを乞う
た。
「三神先生、それでも君は教師か！しっかり
するんだ！」
綱引きの審判を務めている年輩男性教師は、
校庭のど真ん中で悶え狂うイケメン教師を厳

しく一喝した。
それから、両クラスとも互角の戦いを繰り
広げ、勝負がなかなか決着つかないまま綱は
右へ動いたり左へ動いたりと激しく揺れ動き
続けた。
「ああっ、ああっ」
校庭には綱引きをする両クラスの生徒達の掛
け声と共にイケメン教師の喘ぎ声が絶え間な
く響き渡り、校庭にいる生徒や保護者達はそ
の何ともシュールな光景にだんだん酔い痴れ
ていくのだった。

■ 第二章 校庭のど真ん中で逝くイケメン教師

二年生によるクラス対抗綱引きの初戦はなかなか決着がつかなかった。そのため、イチモツと綱を結ばれているイケメン教師は激しく悶え狂い続け、今にも射精しそうな勢いだ

った。
「先生、そろそろイキそう？」

「チ○コが真っ赤になって充血してきてるぜ

先頭の方で綱を引っ張る生徒達はイケメン教

師のイチモツが上下左右に激しく揺れて今に

も爆発しそうなほど大きく膨らんでいること

に気づくと、そう言ってからかった。

「ああっ、もういいい加減にしてくれ・・・」

真琴は理性の力で必死に射精を堪えていたが

もうそろそろ限界が近づいていることを感じ

ていた。

綱を引く生徒達はそんなイケメン教師の姿
を見ると意味深な笑みを浮かべた。実は彼ら

はわざと力を抜いて綱引きをしていたのだ。
そのため、綱が一方のクラスの方に勢い良く
引かれたかと思えば、今度はもう一方のクラ
スの方へと勢い良く引き戻され、彼らはイケ
メン教師のイチモツを弄びながら拮抗した試
合展開を意図的に演出していたのだった。
そんな事など何も知らないイケメン教師は
校庭のど真ん中でまるで卑猥な操り人形のよ
うに腰を厭らしくグラインドさせ、激しく悶
え狂っていた。
「見ろよアレ！そろそろミルク出すんじゃない
ろ。でもなんか面白そうだな」
応援席にいる生徒達は、イケメン教師の射精
が愈々迫ってきた事に気づくと、瞬きを惜し
んで校庭のど真ん中を見つめた。
而して、綱でイチモツを上下左右に扱かれ
続けたイケメン教師はついにその時を迎えた
のだった。
「あああっ」

イケメン教師のオスの鳴き声が校庭全体に響き渡ったかと思うと、その大きく膨らんだイチモツから白濁の汁が勢い良く発射された。――オオッ！――校庭には生徒や保護者達の唸り声が響き渡り、皆、好奇と軽蔑の入り混じった視線をイケメン教師に向けた。――イエーイ！先生逝ったぞ！――「それじゃあそろそろ本気で決着つけるか！綱を引き合う生徒達はイケメン教師の射精を見届ける、そう言つて綱を引く手に力を込めた。射精したばかりの真琴は恍惚とした表情を浮かべ、生徒達が引き合う綱の力にイチモツを揺らしながら暫し呆然と校庭のど真ん中に立ち尽くしていた。その姿はまるで淫らな操りに人形のようにで、校庭にいる全員の目を大いに楽しませた。――やがて、綱引きの試合はついに決着がつき勝負が決まった瞬間、勝ったクラスの方へ綱

の番だったのだ。

「先生、またミルクを出させてやるよ（笑）」

真琴にその声を掛けたのは、綱の先頭に立つ

クラス委員の相葉だった。

「そんな・・・」

真琴は思わず怯えた表情を浮かべたが、イチ

モツはさらに激しく脈打ち、どうやらイケメ

ン教師は再び綱の力で射精させられることを

望んでいるように見えた。

■ 海 老 沢 薫 B L O G

<http://kaoruebisawa.blog.fc2.com/>

・ ・ ・ 海 老 沢 薫 の 最 新 作 の 出 版 情 報 や 、 そ の
ほ か 各 種 コ ン テ ン ツ 情 報 な ど を 配 信 。

■ 海老沢薫 Web 連載小説
『イケメン春輝 二十歳の憂鬱』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=31764>

・ ・ ・ 大学二年生の藤島春輝は、大学の学園祭のミスターコンテストに無理矢理エントリーさせられ、そのステータジ上で罨に嵌められ、大勢の学生達が見つめる前で死ぬほど恥ずかしい痴態を晒してしまう。それでも見事グランプリを受賞した春輝は、セレモニーとして一糸纏わぬ姿で大学のキャンパス内を練り歩き、他の学生達の見世物になったのだった。数日後、ミスターコンテスト実行委員会の学生から連絡を受けた春輝は、毎年恒例のグランプリ受賞者の記念写真集を製作する話を聞かされる。今年のステータジ上で前代未聞の痴態を披露した事からスード写真集にすることが決まり、実行委員会の主要メンバーである須藤から脅され

た春輝は仕方なく撮影に応じることになり・・・。

後日、早速授業中の大教室で撮影をする。とになった春輝は、一番後ろの席で須藤に命じられるまま服や下着を脱いでいき、糸纏わぬ姿でポーズを披露する。

そうして撮影はだんだんエスカレートしていく、イケメン学生は授業中の大教室だけでなく、図書館や学生食堂でも極限の羞恥地獄を味わうことになるのだった。

『イケメン社長 聖哉25歳 | 体を賭けた
屈辱の取引 | 大型ショッピングモール編』

https://regimag.jp/bo/book_view/?book=18357

・ ・ 吉川聖哉は、大学生時代に起業した二十五歳の若き事業家だった。頭脳明晰で抜群のルックスを持ち、社交的な聖哉はまさにイケメン社長と呼ぶにふさわしい華やかさを備えていた。

大学生の頃には、将来有望な若手イケメン社長として一部のメディアでも取り上げられるなど、他人が羨むほど順風満帆な人生を送っていた。

しかし、いつしか聖哉の会社の業績は低迷し、華やかだった生活は次第に陰りを見せていく。

自分に付いてきてくれる社員のため、そして自分の理想のために会社を立て直すべく日夜必死に働き続ける聖哉。

かつて将来有望な若手社長としてもてはやされていたイケメン社長は、どんな泥臭い仕

事でも引き受けるようになり、心ない取引先
やユーザー達からの羞恥の命令にも従い、人
生を翻弄されていくのだった。

『イケメン社長 聖哉25歳 一体で償う屈辱のクレーム 会議室篇』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=38623>

・ ・ ・ 25歳のイケメン社長、吉川聖哉は大学生時代に起業し、若くして成功したカリスマ社長であつた。
しかし、聖哉の会社は次第に業績が悪化し倒産の危機に瀕する状況まで追い込まれていった。
そのため、聖哉は会社存続のために新たに人材派遣事業を興し、様々な企業と取引を始める。
そんなある時、聖哉の元に大口の取引先から一本のクレームの電話が入つた。
取引先の相手は電話越しに聖哉を激しく罵倒し、今すぐ自社まで謝罪に来るよう命じた。
ただでさえ倒産の危機に直面している会社は、この大口の取引先を絶対に失うわけにはいかず、慌てて謝罪へと向かう社長の聖哉。
而して、取引先の会議室へ案内された聖哉

の元に担当部長と現場責任者、そして問題を
起こした当事者である聖哉の会社の社員が現
れ・・・。
平身低頭に謝罪する聖哉に対し、取引先の
相手は誠意ある謝罪を要求し、あまりにも屈
辱的な命令を突き付ける。
社長としてのプライドだけでなく、一人の
人間としての尊厳までも奪われるような命令
に聖哉は憤りを覚えずにはいられたかったが
自分の会社や社員を守り抜くために彼らの命
令に従う覚悟を決め、ついに底なしの羞恥地
獄へと堕ちていくのだった。